



OECC LETTER

2026年4月発行 Vol. 5

日頃より、OECCの活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

OECCの最新の活動をご紹介します。

CONTENTS

■理事長 新年度ごあいさつ

■OECC 社団活動

<開催報告>

・OECC 令和7年度第3回技術・交流部会

・OECC 令和7年度第3回理事会

<開催案内>

・第8回橋本道夫記念シンポジウム

■OECC 事業活動

<イベント／ネットワーキング情報>

・第2回日本・インドネシア環境ウィーク

■お知らせ

・学会誌『Global Environmental Research』"フロンマネジメント特集"におけるOECCの関与



理事長 新年度ごあいさつ

竹本和彦 理事長

OECCはこの度、新たな人材の参入も得て、新年度を迎えました。

近年、国際政治経済情勢が目まぐるしく変化する中、OECCはこれまで培ってきた知見や専門性をフルに発揮し、気候変動対策、資源循環、生物多様性保全など地球環境課題への対応と持続可能な社会の構築を目指し、幅広い活動展開に日々挑戦しています。

昨年 11 月、ブラジルにおいて開催された気候変動枠組条約 COP30 では、従来の政府間交渉を中心とした枠組から、各種対策の実施を見据えた議論の場へと重心が移りつつある兆しが印象付けられました。

こうした流れの中で金融界からは、気候資金を将来の投資機会として捉える観点から、多くの関係者が現地に集いました。これまで温室効果ガス排出量算定・検証の透明性確保の仕組みが実行に移されていますが、一方、金融コミュニティでは、企業の気候対策に関する情報開示を促す動きが加速しています。このため、OECC が環境省や ASEAN 各国との連携の下に推進してきた「コ・イノベーションのための透明性パートナーシップ」(PaSTI)の先進的取組に対し、金融界から熱い視線が注がれており、今後ともこれら二つのプロセス相互の合理的な調整に向け注力していくことが求められています。

また、気候変動対策における都市の役割が、かねてより注目されていますが、最近では循環経済の推進役としても期待が高まっています。こうした潮流を背景に、昨年 11 月「アジア循環型都市宣言」制度がイクレイ日本によって創設され、これまで国内外の 24 の主要都市がこの宣言に署名しています。近い将来、これらの宣言都市を中心として、世界の循環経済推進の輪が広がっていくことが望めます。

現在世界がダイナミックに変革する中、OECC は、今後とも海外環境開発協力分野における中核的組織として国際社会に貢献できるよう一層努めてまいりますので、本年度も皆様方の変わらぬご厚情を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※Web サイトの「[理事長メッセージ](#)」でも、本稿をご覧いただけます。

OECC 社団活動

【開催報告】OECC 令和 7 年度第 3 回技術・交流部会

2 月 6 日(金)、OECC 令和 7 年度第 3 回技術・交流部会を開催しました。令和 8 年度の部会活動計画、令和 7 年 12 月に開催した「COP30 報告会」、今後のセミナーの開催について議論されました。その後、環境省幹部による講演が行われ、環境省の国際分野における令和 8 年度予算案について理解を深める機会となりました。

【開催報告】OECC 令和 7 年度第 3 回理事会

3 月 31 日(火)、OECC 令和 7 年度第 3 回理事会を開催しました。

理事会では、令和8年度事業計画(案)及び令和8年度収支予算(案)が承認されました。また、令和8年度定時社員総会の日程が決定されました。

【開催案内】第8回橋本道夫記念シンポジウム



来たる6月29日(月)に、第8回橋本道夫記念シンポジウムを開催します。

みなさまのご参加をお待ちしております。

(写真は昨年度シンポジウムの様子)

◎テーマ:循環社会形成に向けた先進的取組の推進(仮題)

◎日時:6月29日(月) 14:30~17:30

◎開催形式:ハイブリッド

◎会場:TKP 新橋カンファレンスセンター(東京都千代田区内幸町 幸ビル)

◎シンポジウム概要:

・特別講演:環境省幹部

「現下の国際情勢を踏まえた地球環境問題への対応」(仮題)

・基調講演:有識者

「循環社会の形成に向けた将来展望」(仮題)

・パネル・ディスカッション:政策立案や取組推進に携わる専門家数名

詳細は、追って社団会員の皆さまにお知らせするほか、OECC ウェブサイトにも掲載予定です。

OECC 事業活動

イベント／ネットワーキング情報

【開催案内】第2回日本・インドネシア環境ウィーク



環境省は、2026年5月11日~12日にインドネシア・ジャカルタにおいて「第2回日本・インドネシア環境ウィーク」を両国関係団体とともに開催します。OECCは事務局として運営を支えます。

本イベントではテーマ別セミナー、ビジネスピッチ、技術展示等といった一連のイベントを一体的に開催することにより、日本・インドネシア両国関係者の環境分野における協力とビジネス機会の効果的な創出を図ります。

第2回 日本・インドネシア環境ウィーク ウェブサイトへ

現地／オンラインで参加を希望される方は、下記からお申し込みください。

参加申し込み

DAY1 5月11日 (月)		DAY2 5月12日 (火)	
9:00-11:00(WIB) 11:00-13:00 (JST)	セッション1 循環型経済 (ERIA、環境省共催予定)	9:00-11:00(WIB) 11:00-13:00 (JST)	セッション4 気候変動緩和・適応, JCM
コーヒーブレイク (20分)		コーヒーブレイク (15分)	
11:20-12:00(WIB) 13:20-14:00(JST)	ハイレベル・プレナリーセッション	11:15-11:40(WIB) 13:15-13:40 (JST)	ビジネスピッチ
ネットワーキングランチ (60分)		セッション5 CEFIA フラグシップバイオマスセミナー (日本国経産省主催)	
13:00-13:30(WIB) 15:00-15:30 (JST)	ビジネスピッチ	9:00-11:00(WIB) 11:00-13:00 (JST)	セッション6 インドネシアにおける廃棄物処理に取り組む日本企業との共創可能性とは (仮題) (国際機関日本アセアンセンター主催)
13:30-15:10(WIB) 15:30-17:10 (JST)	セッション2 PaSTI - サプライチェーン全体にわたる温室効果ガス (GHG) 排出の可視化を通じた産業の競争力向上	ネットワーキングランチ (60分)	
コーヒーブレイク (15分)		14:20-16:00(WIB) 16:20-18:00 (JST)	
15:25-17:05(WIB) 17:25-19:05 (JST)	セッション3 水・大気汚染対策		

第2回 日本・インドネシア環境ウィーク プログラム

(予告なく変更される場合があります。最新の情報は[ウェブサイト](#)をご確認ください)



日本・マレーシア環境ウィーク(前回開催)

前回の環境ウィークは2025年10月、マレーシア・クアラルンプールで行われました。イベントの内容やビジネスマッチング成果を伝える開催報告記事を、環境省「環境インフラ海外展開プラットフォーム」のウェブサイトで公開しています。ぜひご覧ください。

開催報告を読む

お知らせ



学会誌『Global Environmental Research』 "フロンマネジメント特集"における OECC の関与

OECC が関わる、フロン類のライフサイクル全体を通じた管理の研究成果が、学会誌『Global Environmental Research』Vol.29 No.2 に特集として掲載され、オンラインで公開されました。

【OECC の主な関与】

- ・理事 加藤 真、シニアプロジェクトフェロー 玉井 暁大による共同執筆論文(複数)
- ・国内外の研究者・実務者との国際共同研究への参画
- ・論文査読プロセスへの協力

学会誌『Global Environmental Research』は、OECC の会員である一般社団法人国際環境研究協会(AIRIES)が発行する論文雑誌です。

国内外の関係者の皆様への共有も歓迎いたします。詳しいご紹介は下記をご覧ください。

[Web サイトで紹介を読む](#)

「OECC LETTER」は、OECC 会員企業・団体のみなさま、配信ご希望の連絡をいただいた方、および OECC 職員がごあいさつさせていただいた方などにお送りしています。

配信停止: [こちら](#) のフォームからご連絡ください

個人情報及び特定個人情報保護方針: [こちら](#) をご覧ください



発行: 一般社団法人 海外環境協力センター(OECC)

東京都千代田区内幸町 1-3-1 幸ビルディング 3 階

2026 年 4 月